

あつたまりの種



背景／問題意識

1. まちで子育て

福井県は3世代同居が多く、共働き率が高い福井県においては、協力して子育てをしていく体制が必要である。さらに今後、働きながら子育てがしやすいように、まちなかでの子育て支援を進めていく必要がある。

福井のこれからを考えて

2. 高齢者の活力とセーフティネット

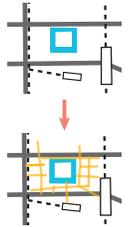
高齢者人口の割合は増加する中、元気な高齢者の活力を生かして社会を支えていく必要がある。
加えて、身寄りがいない人や裕福でない人も、まちや人と関わりつつ生きていく社会をつくらなければならない。

3. 強い中小企業

福井県には、眼鏡、繊維等軽工業など、技術を持つ中小企業が多い。それぞれの技術を組み合わせ、新しい製品、ビジネスを生み出していく必要がある、県や市としても地元産業を応援していくべきである。

4. 歩行空間の創出

戦災、震災の復興で福井市内の道路は広く直線的に整備され、自動車に適した都市構造となった。今後は、EVなど小型交通の発達をふまえて、歩きやすく、人とまちですれ違いやすいまちにすることがまちの賑わいにつながる。



「あつたまり」によるまちづくりの提案

あつたまりの考え方 「あつたまり」=「あたたかい」+「たまり」

あつたまりとは「あたたかい」と「たまり」場をかけた造語で、まちの中に人がたまっている場のことを示す。このあつたまりは、子育てや高齢者介護支援、地元企業の支援、歩行者空間の創出という課題を、人と人とを結びつけることで解決しようとするものである。このようなあつたまりがまちに整備されることで、人の結びつきは徐々に強くなっていき、さらにはその空間との関わり方も変わって行く。

あつたまりをまちに埋め込んでいくことで、人の関係性を育み、交流し協力しながら暮らす強い社会をつくることを目指す。

あつたまりの種類

子どもや高齢者を見守るあつたまり

福祉都市の顔・城址公園

城址を子どもや高齢者を見守る場やアクティブシニアの活躍の場と位置づけ、都市の中心に整備する。

共同中庭のある住宅

住宅地に共有スペースとなる中庭を整備し、近所づきあいを通して、周囲と協力しながら暮らせる住環境を作る。

地元企業支援のあつたまり

企業同士の交流拠点

福井県や福井市が福井の地元企業を応援する場を都市の中に可視化する。地元企業同士の情報交換・共同開発を推進。

シェルターのネットワークのあつたまり

電車やバスの待合室

公共交通機関の利便性を高め、まちにでかけやすくする。交通のターミナルはまち歩きの拠点になる。

小さなほっとスポット

まちを散策中に一休みできる場。歩きやすい道と一緒に整備することで、場所と場所が無理なく歩いてつながる。

あつたまりは成長する

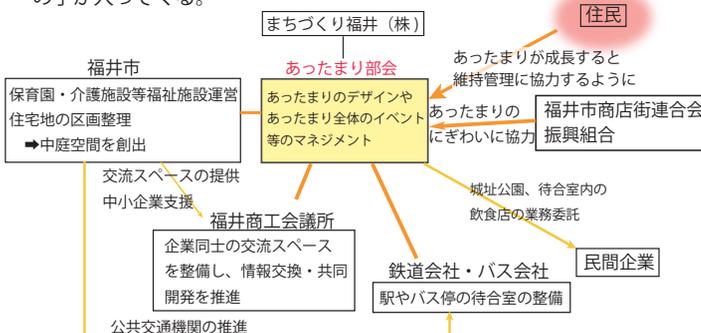
利用者同士の関係が変化することで、利用者とおつたまりの空間の関係も変わる

	あつたまりの種	あつたまりの芽	あつたまりの花	あつたまりの実
あつたまりで出会う人同士の関係	すれ違う、見かける	人間関係が芽生える	コミュニティの結びつきが強くなる	人々の大事な場
空間との関係	空間を管理する主体が必要	空間の利用ルールを共同認識する	イベントを開催する使い方を考える	自分たちで積極的に整備する

関係性が強まるにつれて利用者の主体性が育って行く

あつたまり全体のマネジメント（あつたまり部会）

あつたまり全体の企画・運営は、まちづくり福井株式が行う。まちづくり株式会社下部組織としてあつたまり部会を新設し、あつたまりのデザインマネジメントや維持管理、業務委託などを行う。あつたまり部会は、福井市や商工会議所、商店街の組合などと共同で整備、維持管理を行う。あつたまりが成長するにつれて、維持管理に住民の手が入ってくる。



あつたまりのある風景

